

秋田市学校教育の重点

【秋田市教育の目指す姿】郷土あきたの明日を拓く「自立と共生」の人づくり 【学校教育の目標】「志を持ち『徳・知・体』の調和のとれた子どもをはぐむ学校教育の充実」

目指す授業のイメージ：「分かった」「できた」を実感し、「もっと学びたい」につながる授業

生徒指導の3機能を基盤とし、基礎的・基本的な知識や技能の定着、および思考力・判断力・表現力をはぐむ学習指導の充実を図るとともに、学ぶ意義を認識させ、学習意欲を高めるような授業づくりの工夫や改善が重要

秋田市の学校の取組

【家庭・関係機関との連携】

POINT 主体的な家庭学習を積み重ねる

□学習課題を自分で決める取組の継続

事例(小)

- ・年度当初は全員同じ課題に取り組みせ、「家庭学習の手引」により家庭学習の仕方を身に付けさせる。
- ・6年生後期より課題に予習を取り入れる。

事例(中)

- ・家庭学習ノートのモデルを示す。
- ・授業での「振り返りカード」を、家庭学習の目標設定にも活用させている。

【授業づくり】 POINT 日常的に互いの授業を参観し合う

□「授業改善の視点」を日常的に意識した学習指導の工夫・改善

「授業改善の視点」

子ども一人ひとりが主体的に取り組む学習となっているか

自己の考えを広げ深める協働的な学習の充実が図られているか

学ぶ意義を認識させ、学習意欲を高めるような授業となっているか

一人ひとりの状況に配慮した指導の充実

身に付いた力が実感できる振り返りの工夫

指導過程や学習形態の工夫

思考を深める手立ての工夫

身に付けさせたい力の明確化

【教員の意識・指導力の向上】

POINT 焦点化した手立てを全員が実践する

□校内研究推進の基本的な考え方

事例(小)

- ・「もっと学びたい」につながる振り返りを工夫する
- ・各学年や学級の指導法のよさを共有する
- ・協議会での課題を整理し、日常の指導に生かす

事例(中)

- ・思考を深める学び合いの場を工夫する
- ・教科等の特性を生かした指導法のよさを共有する
- ・日常の指導における継続的な工夫改善を行う

【秋田市教育委員会「秋田市学校教育の重点」～学びの質を高める授業改善～より】

【学力基盤づくり】

POINT 生徒指導の3機能を基盤にする

□自己決定の場を設定する □自己存在感を持たせる □共感的な人間関係を育成する

秋田市教育委員会の取組

学校訪問

◇ 計画訪問

- ・学校数 小学校 42校 中学校 24校
児童自立施設内学校 1校
高校 2校 専修学校 1校

◇ 要請訪問

- ・校内研修等に指導主事を派遣

※秋田大学の先生を委嘱し、市立小・中学校の学校訪問をとおして教科等の研究について、理論と実践から指導助言

学力調査等の活用

		小4	小5	小6	中1	中2	中3
4月	全国学力・学習状況調査			○			○
10月	(秋田市)基礎学力調査		○			○	
12月	(秋田県)学習状況調査	○	○	○	○	○	

◇ 全国学力・学習状況調査

・「学習指導改善の方策」配付(7月) ・秋田市の調査結果概要をHP上で公表(10月)

◇ 基礎学力調査(小5・中2 10月実施)

・「授業改善のヒント」配付 ・調査結果分析 ・「授業改善のポイント」、「実践事例集」配付(3月)

教職員研修

◇ 秋田市小中学校教職員研修

- ・平成29年度は全72講座
- ・専門研修において各教科の小中合同研修会
- ・全市一斉授業研修会(平成22年度より)

◇ 小中学校の円滑な接続を目指した取組

- ・(小)中学校での学習を見通した重点的に指導する単元の設定
- ・(中)小学校とのつながりを意識した既習事項を確認する場の設定

秋田市の実態(平成28年度全国学力・学習状況調査結果について)

◇ 教科調査の概要

- ・各教科の領域ごとの平均正答率が、小学校中学校共に全国平均を上回っている。
- ・各教科の無回答率について、小学校では全ての設問で全国平均を下回っている。中学校では数Bの1問を除き、全国平均を下回っている。
- ・国語、算数・数学共に、A問題に比べ、B問題の正答率が低い傾向にある。

◇ 児童生徒質問紙調査の結果から

- (自分自身) 自分自身のよさを知り、向上心をもって生活している子どもの割合が、全国平均を上回っている。
- (人との関わり) 学校での話し合い活動が充実していると感じている子どもの割合が、全国平均を上回っている。
- (家庭生活) 基本的な生活習慣や家庭学習の習慣を身に付けている子どもの割合が、全国平均を上回っている。
- (学習) 主体的・協働的に学習活動に取り組んでいる子どもの割合が全国平均を上回っている。